

令和 6 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉
法 人

和歌山市社会福祉協議会

令和6年度 事業報告書

近年の少子高齢化・核家族化の進行や人口減少などの社会情勢の変化による地域のつながりの希薄化がコロナ禍以降さらに進行し、社会的に孤立する世帯が増加しています。また、食品や日用品などの物価高騰により、生活状況が改善されないなど社会を取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような中、本会では重層的支援体制整備事業としての多機関協働による地域福祉推進事業において、総合相談の窓口を開設し市民の皆様の困りごとの解決に取り組み、緊急的に支援が必要な方などに対して、市民等から提供された食品や日用品などの物資を配付するなど、生活の支援を行いました。また、県社協と連携し、生活に困窮した市民への支援として特例貸付を行った世帯に対する貸付後のフォローアップ支援や、プッシュ型アウトリーチとしての相談支援等を実施しました。

地域福祉の推進においては、中核的な役割を担う和歌山市地区社会福祉協議会を中心に地域づくり事業を展開するとともに、生活支援体制整備事業とも連携し、地域共生社会の実現に向けた住民同士のつながりの構築に取り組みました。

ボランティア活動においては、災害への備えとして災害ボランティア設置運営訓練の実施、県内社協や和歌山市との連携強化に努め、災害に強い支援体制づくりに取り組み、また、能登半島地震の被災地支援のための職員派遣や災害ボランティアバスの運行などを行いました。

事業の実施状況については、次のとおりです。

1 法人の運営

(1) 法人の運営

① 理事会・評議員会・各種委員会の開催

ア 理事会の開催（2回）

令和6年 6月 7日

- ・令和5年度事業報告及び計算書類の承認について
- ・令和6年度定時評議員会の招集について
- ・懸案事項について

※報告事項 会長の職務執行状況報告について

令和7年 3月13日

- ・令和6年度3月補正資金収支予算の承認について
- ・定款の変更について
- ・事務局規程の変更について

- ・経理規程の変更について
- ・令和7年度事業計画の承認について
- ・令和7年度資金収支予算の承認について
- ・令和7年度業務請負契約に関する事項について
- ・評議員会の招集について
- ・第5次地域福祉活動計画の策定について
- ※報告事項 会長の職務執行状況報告について
令和6年度第1回理事会懸案事項の経過報告

イ 評議員会の開催（2回）

令和6年 6月24日
令和7年 3月21日

- ・令和5年度事業報告及び計算書類の承認について
- ・令和6年度3月補正資金収支予算の承認について
- ・定款の変更について
- ・令和7年度事業計画の承認について
- ・令和7年度資金収支予算の承認について

ウ 決算監査の実施

令和6年 5月22日

- ・令和5年度事業報告及び法人会計決算について、監事による監査を受け、その結果いずれも適正に処理されていることが承認された。

エ 正・副会長会議の開催（2回）

令和6年 5月23日
令和7年 2月27日

- ・第1回理事会及び定時評議員会提出議案について協議
- ・第2回理事会及び3月評議員会提出議案について協議

② 事業の総合的企画立案及び調整

地域共生社会の実現に向けた取り組みや、コロナ禍以降に進行した社会的孤立や物価高騰による生活困窮に対応するための生活支援体制の構築に努めた。

また、第4次地域福祉活動計画の最終年度を迎え、各事業の検証を行うとともに新たに第5次地域福祉活動計画を策定した。

③ 福祉に関する調査、研究の実施

社会情勢を把握し、現況に沿った社会福祉協議会活動に必要な調査・研究を行った。

④ 行政及び福祉関係機関との連絡調整

社会福祉協議会活動の実施にあたり、地区社会福祉協議会、自治会、民生委員・児童委員協議会をはじめ、行政や各種の

福祉関係団体、社会福祉施設等との連携を図った。

(2) 社会福祉協議会「会員」の募集

社会福祉協議会の活動趣旨に賛同して協力・支援をいただく会員を、広報紙及びホームページで広報した。また、地区社会福祉協議会をはじめ各種福祉団体や福祉施設等の協力を得て募集を行った。

① 一般会員	会費総額	6,484,875円	(1口 200円× 32,423口)	(P.19参照)
② 施設団体会員	会費総額	1,005,000円	(1口 3,000円× 335口)	
③ 賛助会員	会費総額	90,000円	(1口 5,000円× 18口)	
④ 特別会員	会費総額	260,000円	(1口 10,000円× 26口)	
合 計		7,839,875円	(32,802口)	

(3) 広報及び職員研修の実施

① 広報紙「わかやまし社協」の発行とホームページによる広報

社会福祉協議会活動の広報、情報提供、福祉意識の高揚を図ることを目的に広報紙「わかやまし社協」を年4回（7月・10月・1月・4月）発行し、全戸配布を行った。

また、ホームページで当会の情報を発信し、各事業の紹介や募集を行った。

② 広報広聴委員会の開催

広報広聴委員会を12回開催し、広報紙や社協パンフレット・ホームページの内容を検討し作成した。

③ 職員研修運営委員会の開催

令和6年11月に職員研修運営委員会を開催し、職員研修計画について検討を行った。

④ 職員研修の実施と専門研修の受講促進

職員研修計画に基づき、職員研修や各種研修会の受講促進に努めた。

なお、全職員を対象とした職場研修については、11月に人権（同和）研修、2月にメンタルヘルス研修を行い、専門研修及び自主研修については、各自参加した。

⑤ 人権啓発活動への協力

令和6年10月1日発行の「わかやまし社協」第112号において、「勇気こそ差別をなくす第一歩」を標語に人権啓発推進の広報を行った。

(4) 善意銀行の運営

本年も多くの市民の暖かい善意により、18件 3,804,549円の寄付金が寄せられ、次の関係の事業等に配分した。

また、本会の広報紙において善意銀行をPRし、寄付協力の啓発を行うとともに寄付者を掲載した。

① 広報活動の強化等による善意銀行寄託者獲得

② 寄付金の有効配分

③ 高齢者福祉への支援

令和6年9月の敬老月間に伴い、市内の高齢者福祉施設（63箇所）に、敬老祝品を贈呈した。

④ 障がい者（児）福祉への支援

和歌山市並びに和歌山市障害児者父母の会の主催による「第38回和歌山市障害児者親子のつどい」が、令和6年5月16・17日静岡県（浜名湖花博等）を巡る一泊二日の旅として開催され、その事業に側面から協力した。

⑤ 児童福祉への支援

ア 児童福祉週間（5月5日～11日）に伴い、児童養護施設を中心に児童福祉関係施設5箇所を激励訪問した。

イ 児童養護施設に入所する「小・中学校入学並びに中学校卒業」児童・生徒を激励訪問し、小学校に入学する児童7人、中学校に入学する生徒12人、中学校を卒業する生徒19人に対し激励の記念品を贈呈した。

ウ 和歌山市民生委員・児童委員協議会の主催による「民児ふれあいの日」が開催され、その事業に側面から協力した。

2 共同募金運動及び配分事業の実施

（1）共同募金運動の推進

① 共同募金活動への協力支援

令和6年10月1日から令和7年3月31日までの運動期間において、各地区の連合自治会、民生委員・児童委員協議会、地区社会福祉協議会等関係団体を始め、学校、職域等多数の市民の協力により募金活動に取り組んでいただいた結果、本年度目標額 35,769,000 円に対し、実績額 28,889,977 円（達成率 80.7%）の募金が集められた。また、前年度募金実績に対して、和歌山県共同募金会配分委員会において配分額が決定され、当協議会へ 11,831,000 円の配分があり、地域福祉推進のための事業に配分を行った。

② 地域歳末たすけあい運動の推進

令和6年12月1日から12月31日までの一か月間に「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに運動を推進し、市内8地区で実施され、総額 2,763,709 円の募金を各地区の社会福祉協議会、連合自治会、民生委員・児童委員等から社会福祉施設や地域福祉事業等に配分された。

③ 赤い羽根自動販売機設置の支援

誰もが気軽に募金ができる赤い羽根自動販売機の設置を促進するため、広報紙への掲載やチラシを作成し啓発を行った。

令和6年度末 設置台数 32台

（2）一般募金配分金事業の実施

共同募金の配分金を活用して、次の事業を行った。

- ① 地域福祉活動、高齢者福祉、障がい者（児）福祉、児童福祉、保育協議会活動など各種福祉団体への支援
市内の福祉団体等に対し運営費の助成を行った。
- ② 子育て世帯への支援としてこども食堂への特別配分を実施
市内で子ども食堂を実施している団体等に特別配分の募集を行い、申請のあった15団体に対し運営費の助成を行った。
- ③ 災害備蓄品の整備並びに被災地支援の実施
災害時及び災害支援時に必要な資機材の整備及び能登半島への災害ボランティアバスの運行を行った。

（３）和歌山市社会福祉功労者等表彰式の開催

令和6年11月12日和歌山城ホール小ホールにおいて和歌山市との共催により開催し、社会福祉に功労のあった地区社会福祉功労者21人・1団体、社会福祉団体功労者5人、模範老人20人に対し表彰状を贈呈し、社会福祉施設協力者1人・2団体に対し感謝状を贈呈した。

3 福祉総合推進事業の実施

（１）各種研修の実施

職場研修については、全職員を対象とした研修をあいあいセンターにおいて次のとおり2回実施した。また、専門研修及び自主研修については各自参加した。

- ① 人権（同和）研修 令和6年11月20日～22日
- ② メンタルヘルス研修 令和7年 2月19日～21日

（２）障がい者（児）福祉事業の実施

- ① おもちゃ図書館
発達障がいや身体の障がいなどにより、在宅や地域などで同年齢の子どもたちと遊ぶ機会が少ないこどもに、おもちゃなどを通して社会性の発展及び情緒性の成長を促すことを目的としてふれ愛センターで実施した。
実施回数 12回 利用者数 延べ68人
- ② 障がい者スポーツ体験教室の実施
障がい者にスポーツの楽しさを知ってもらい、スポーツを始めるきっかけを提供することを目的としてふれ愛センターで実施した。
実施回数 各12回
利用者数 カローリング 延べ26人、フライングディスク 延べ32人、ボッチャ 延べ26人

(3) わかやまし社協まつりの開催

市民の方々に地域福祉の理解と関心を深めていただくことを目的に、令和7年3月9日「第18回わかやまし社協まつり」をあいあいセンターにおいて開催した。多くの関係機関・団体の協力のもと、約1,800人が来場された。

(4) 子育て世帯への支援としてチャイルドシート等貸出事業の実施

帰省や購入するまでなど一時的にチャイルドシートやベビーカーが必要な方に次のとおり貸し出しを行った。

貸出件数 チャイルドシート 35件、ベビーカー 12件

4 地域福祉活動の推進

(1) 地域福祉活動推進事業の実施

(P. 20 参照)

① 地区社会福祉協議会の活動支援

市内42地区社会福祉協議会の活動支援を行った。和歌山市地区社会福祉協議会が実施する地域支えあい事業では、地域社会の交流促進や生活支援のため、65歳以上のひとり暮らし高齢者への見守りを目的とした地域支えあいサービス事業、高齢者・障がい者・子育て中の親子の交流促進を目的とした地域支えあいサロン、世代間交流を図る地域支えあい広場（三世代交流イベント）、在宅介護に役立つ講習を提供する地域支えあい在宅ケアの集い、高齢者の食生活改善を目的とした高齢者料理教室が開催され、当会はこれらの地域活動への理解を深める多様な活動を側面から支援した。

② 各種研修会の開催

ア 障がい児相談員研修会の実施

令和7年2月10日に、和歌山市危機管理局地域安全課から講師を招き「和歌山市災害と防災対策」について研修会を開催し、障がい児に対する適切な情報の提供と助言が行えるよう研鑽を図った。

イ 地域ボランティアコーディネーター研修会の実施

各地区での様々な地域課題を解決するため、地域の多様な主体との協働により地域社会をつくる担い手となって地域活動等に携わっていくことを目的に、令和6年9月2日、17日、10月10日、24日の4回を開催し、参加者延べ68人が研修会を受講した。

③ 地域福祉活動の人材育成

各地区でさまざまな事業を実施する中で、地域活動等に携わっていただける人材の発掘や育成に努めた。

(2) ボランティアセンター活動の推進

① ボランティア活動基盤整備

ア ボランティアに関する相談、情報提供、情報収集、登録、斡旋

ボランティアに関する相談や情報提供、情報収集、登録、斡旋を行った。登録ボランティアの活動支援として、高齢者施設への訪問や傾聴活動、環境美化活動などへ繋いだ。また、ホームページにてボランティア登録申込フォームを開設した。ボランティア登録者数は134人であった。

イ ボランティア活動保険の加入促進

ボランティアが安心して活動できるようにボランティア保険加入の促進を行った。活動保険加入件数は、1,865件であった。

ウ コーディネーターのスキルアップ

コーディネーター業務を円滑に実施できるよう、和歌山県社協をはじめ、海南市社協や有田川社協など県内社協との交流を図り、スキルアップの向上に努めた。

② ボランティア育成と確保

ア 夏のボランティア体験学習の開催

誰もが参加できるボランティア活動のきっかけづくりを目的に「夏のボランティア体験学習」を開催し、中学生・高校生の12人が体験した。

開 催 日	内 容	協 力 団 体	参加人数
令和6年8月 5日	農業体験（野菜の収穫、草引き等）	榎原周辺の畑	1
令和6年8月 8日	保育体験（こどもたちとのふれあい）	和歌山市立城北保育所	3
令和6年8月 9日	こどもたちとのふれあい体験	ほんまちえんがわハウス	4
令和6年8月20日	保育体験（こどもたちとのふれあい）	和歌山市立城北保育所	2
令和6年8月21日	保育体験（こどもたちとのふれあい）	和歌山市立城北保育所	2

イ 次世代ボランティアの育成と確保

地域でボランティア活動を行う人が減少傾向にあるため、次世代を担う人を増やし地域活動や福祉活動に取り組むことを目的に、令和6年10月19日に和歌山市立青少年国際交流センターにて、和歌山県社協地域福祉部と青少年国際交流センターから講師を迎え、「避難所ボランティア」をテーマに、高校生や地域住民18人が気軽に参加できる次世代ボランティアとしての心構えなどを学んだ。また、ロープワーク体験や、避難所での炊き出し体験として野外炊飯などを行った。

ウ ボランティア登録者の活動支援

ボランティア同士の交流を図り、ボランティアの輪を広げていくことを目的に7月5日と12月9日に和歌山市汀公園

でクリーン作戦を行った。また、イベントでの手伝いや施設への訪問など行った。

エ おもちゃ病院の実施

おもちゃの治療（修理）を通して、こどもたちに物を大切にする心を育んでもらうと同時に、世代間の交流を図り、笑顔で暮らす地域づくりを目的に「おもちゃ病院」を毎月第1土曜日（5月、8月、1月は休診）に開催した。今年度は、210個のおもちゃを預かり、186個を完治治療した。

また、月に一回、おもちゃドクターが集まり、おもちゃの修理の仕方などの勉強会を行った。

③ 福祉教育の推進

ア 福祉教育実践プログラムの実施

福祉教育を推進していくうえで、学校を拠点に住み慣れた地域で、こどもたちと地域の方々がつながり一緒に考え支え合うことで、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考え、共感することのできる温かい心を育んでもらい、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目的に、和歌山市立三田小学校、和歌山市立今福小学校、和歌山市立野崎小学校、和歌山市立名草小学校、和歌山市立加太中学校、和歌山市立西和中学校、和歌山大学教育学部附属中学校の7校で、当事者の講話、防災・災害についての話、アイマスク体験、車いす体験、高齢者擬似体験、手話体験、障がい者スポーツ体験などを行った。

イ 社会貢献活動への取り組み

（ア）NPO 法人 JHD&C（通称ジャーダック）が行う病氣や事故などで毛髪を失ってしまったこどもたちに、寄付された毛髪で製作したウィッグを無償で提供するヘアドネーションの取り組みに、当会は全国2,690人の方から寄せられた毛髪を窓口として受け取り、作業先の和歌山刑務所へ送付した。

（イ）当会に登録しているボランティアと和歌山刑務所が医療機関において化学療法をしている患者さんのために、市民の皆様から頂いたタオルで製作した「タオル帽子」123枚を医療機関に寄贈した。

④ 災害ボランティアの確保と支援

ア 災害ボランティアセンター設置運営に係る体制の確立

平常時の連携強化と災害時にも強いまちづくりを目的に、令和7年2月23日和歌山市さんさん公園多目的広場において、災害支援協定を結んでいる和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター、和歌山青年会議所、また近隣の社協や住民に応援をいただき総勢90人の参加のもと災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施した。

今回の訓練は、和歌山県社会福祉協議会主催の広域・同時多発災害対応訓練も兼ねており、災害ボランティアセンター設置運営にかかる中核スタッフとしての知識の向上と県内社協職員との交流も図ることができた。

イ 災害に備えた平時からの取り組みの推進

令和元年度に創設した災害ボランティア事前登録制度で災害ボランティアの確保を行い、総登録者数は84人となった。

ウ 県社協、県内社協との連携

県社協に登録している災害ボランティアセンター運営支援中核者として、訓練や研修会実施に係る事前準備会議等に参加し、県社協及び県内市町村社協等と連携強化を図った。

エ 行政及び関係機関との連携

災害時の協定書に基づき災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施し連携強化に努めた。

オ 災害ボランティアセンター運営支援者（中核スタッフ）の養成

令和6年12月に開催予定の県社協主催による災害ボランティアセンター中核スタッフ養成講座が、令和6年能登半島地震及び奥能登豪雨による災害ボランティアセンター運営支援のため、中止となった。

⑤ 能登半島への被災地支援

ア 被災地への職員派遣

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」の復興支援のため、石川県七尾市災害ボランティアセンターへ4月25～5月1日、5月7日～5月13日、5月27日～6月2日の日程で職員3人の派遣を行った。

イ 災害ボランティアバスの運行

令和6年11月23日にボランティア19人参加のもと石川県珠洲市に災害ボランティアバスを運行し、被災地の復旧のための活動を行った。

（3）生活支援体制整備事業の実施（和歌山市からの受託事業）

地域住民が主体となり、高齢者の社会参加や生活支援、介護予防の充実に図り、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活が送れるように高齢者を支える体制づくりを目的として、次のとおり実施した。

① 第1層生活支援コーディネーター業務

ア 第1層協議体の運営

令和7年3月25日から28日にかけて、協議体委員に第1層及び第2層各圏域の進捗状況等を報告した。

イ 第2層協議体の運営支援

各圏域で開催された第2層協議体会議や行事に参加し、地域とのつながり強化に努めた。

ウ 第2層生活支援コーディネーターと連携及び活動支援

毎月1回生活支援コーディネーター（15圏域）と合同連絡会議を開催し、第2層生活支援コーディネーターと情報交換や各圏域の課題の抽出、解決方法を協議し連携強化を図った。

エ 関係機関とのネットワークの構築

地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、老人クラブ連合会、地域包括支援センター、自立相談支援機関等の関係機関との連携を強化し、ネットワークの構築に努めた。

② 第2層生活支援コーディネーター業務

ア 第2層協議体の運営と支援

市社協が担当している6圏域にて、地区の行事や地区社会福祉協議会の活動に積極的に運営・支援し、各圏域の地域包括支援センターと連携し地域とのつながりを強化した。

担当圏域

第1圏域	第2圏域	第3圏域	第7圏域	第12圏域	第13圏域
加太・西脇	木本・貴志	松江・湊	西和佐・和佐・小倉	砂山・今福・吹上・高松	広瀬・芦原・新南・大新

イ 担当圏域における新たな居場所の創出

担当圏域内で延べ81回協議体会議を開催し、他圏域のコーディネーターと連携しながら新たな居場所の創出に取り組んだ。

(4) 高齢者福祉の推進

令和6年9月の敬老月間に伴い、和歌山市地区社会福祉協議会と連名で新100歳の長寿者（125人）に長寿祝品を贈呈した。また、市内の高齢者福祉施設（63箇所）に、敬老祝品を贈呈した。

5 生活支援事業の推進

(1) 生活福祉資金貸付事業の実施（県社協からの受託事業）

① 各種資金貸付の実施

生活困窮になっている低所得者、障がい者及び高齢者世帯を対象に相談と必要に応じ貸付を実施した。

また、民生委員の協力のもと借受世帯への相談支援や現況調査、滞納世帯への督促を行った。

貸付件数 44件

(P. 21 参照)

② 貸付調査委員会の開催

福祉費（障がい者の自動車購入に必要な経費）について、令和6年4月23日に5人の調査委員のもと、生活福祉資金貸付調査委員会を開催した。

③ 相談支援の推進

民生委員、自立支援相談機関と連携し相談者への自立に向けた相談支援の推進を図った。

④ 生活福祉資金債務世帯等自立支援事業の実施

県社協と連携し債務者に対する償還方法等について相談支援を図った。

(2) 特例貸付借受人等生活困窮者への支援の実施（県社協からの受託事業）

① 借受世帯の自立支援事業の実施

県社協及び関係機関等との連携による相談支援の強化を図った。

② 償還免除及び償還猶予手続きの実施

免除申告者だけでなく、償還免除制度の情報提供を訪問及び電話等により実施し手続きにつなげた。また、償還猶予に関しても対象者の相談に応じ、適切な支援を行った。

③ 借受世帯へのフォローアップ支援の実施

生活に困窮した市民への支援として特例貸付を行った世帯に対する貸付後のフォローアップ支援を行った。償還免除や償還猶予となった世帯に対して訪問活動や電話相談を通して生活の実態調査を実施、見えてきた課題に対して、借受人との信頼関係を築き、自立に向けた活動を行うとともに専門的関係機関につなぐなど、生活再建にむけたフォローアップを積極的に実施した。この取り組みは、全国的にも評価され全社協や鹿児島県社協及び和歌山県社協の研修会などで事例報告を行った。

訪問支援 延べ1, 791件 電話相談 延べ3, 667件 合計 延べ5, 458件 （P. 22参照）

(3) 福祉サービス利用援助事業の実施（県社協からの受託事業）

① 判断能力が不十分な方に対する福祉サービス利用援助事業実施状況

判断能力が不十分な高齢者や知的障がい・精神障がいのある方など日常生活を営むのに支障がある方との契約に基づき、福祉サービス利用に関する相談に応じ、助言を行い、福祉サービスの利用のために必要な手段及び適切な利用に関する一連の援助を行った。

利用状況

対 象 者	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
利 用 者 数	42	34	47	8	131
新規契約者数	4	3	5	3	15
契約解約者数	5	4	6	0	15

相談件数

対象者	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
件 数	45	13	24	13	95

② 生活支援員の育成と研修

令和6年6月7日及び令和7年1月22日の2日間、専門知識習得のために県社協主催の研修会に参加した。

③ 福祉サービス利用援助事業に関する住民への周知

社協ホームページによる広報活動を行った。

(4) ふれあいサービス事業（住民参加型在宅福祉サービス）の実施

① 提供会員・利用会員相互の助け合い活動の実施

ふれあいサービス事業は、サービスを利用する人とサービスを行う人とお互いに会員になり、年齢や公的サービス利用の有無にかかわらず、「困ったときはお互いさま」の気持ちで在宅において主に家事援助を行う社協独自の福祉サービスで、次のとおり実施した。

会員登録者数 225人（内訳： 提供会員57人・利用会員168人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
提供人数	19	19	24	22	22	24	24	30	27	16	18	19	264
利用人数	47	46	60	51	50	44	53	62	62	30	39	39	583
活動延べ回数	140	124	183	117	128	130	138	178	151	72	96	77	1,534
活動利用時間数	167	144	216	132	157.5	145	190	248	218	79	129	85.5	1,911

② 提供会員研修会の開催

令和6年度ふれあいサービス提供会員研修会を令和7年3月18日に、事業についての現状説明と活動の近況報告や抱えている課題の共有、課題解決に向けた意見交換会を行った。

③ 住民参加促進の広報活動の実施

社協ホームページ、広報紙による広報活動を行った。

(5) 地域福祉権利擁護事業（地域福祉権利擁護センター）の実施

① 権利擁護・成年後見制度に関する相談の受付 99件

② 法人後見事業の実施 利用者2人

(6) 多機関協働による地域福祉推進事業（重層的支援体制整備事業）の実施（和歌山市からの受託事業）

① 多機関協働事業

これまでの支援体制では対応が困難なケースについて、課題解決のために連絡調整を行うなど、関係機関のコーディネートを行い、必要な支援が届いていない方や複雑、複合的な課題を抱える世帯について、支援関係機関で情報共有し役割分担や支援の方向性を定めるため、支援会議及び重層的支援会議を開催した。

支援会議 6回、重層的支援会議 2回

② アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

支援関係機関とのネットワークや地域住民とのつながりの中から潜在的な相談者の把握に努めた。特に複雑、複合的な課題をかかえる方やひきこもりの方などに支援を届けるため、継続的な訪問活動や情報提供を行うとともに、必要に応じ家族への支援も行った。

ア 緊急的生活支援サービスの実施

- ・緊急的に支援が必要な生活困窮者に対し、食糧などの物資を提供することによる生活再建に向けた支援を行った。

相談者への提供 228件

- ・フードドライブの実施

地域の方々や企業から食品などの寄付を募り、緊急で支援が必要な方や支援団体に提供。

物資寄付件数（個人、団体）34件 支援団体への提供 4件

イ 福祉生活環境改善プロジェクト

ゴミ屋敷などの不衛生な生活環境下で当事者の心身や生活に悪影響を及ぼし、地域からの孤立など多様な課題を抱える世帯に対し、関係機関や地縁組織と協働し、住居の片づけやゴミ出しなど生活環境を整えた。

件数 4件

③ 参加支援事業

ア 本人の課題や意向などを把握し、ボランティア活動などへの参加や地域の社会資源などを活用して社会とのつながりを作るための支援を行った。

イ 就労サポート事業として、ハローワーク及び採用面接への同行、事業所への見学・実習など就労に向けての支援を実施した。

ウ 誰もが地域で活躍できる場として、ふれあいサービス事業を活用した。

④ 地域づくり事業

支え手、受け手の関係を超えて、一人一人が地域の一員として参加できる地域づくりを目指し、支援が必要な人と地域とのつながりを確保できる基盤づくりとして、地域支えあい事業を活用して支え合い、助け合いの地域づくりに取り組んだ。

⑤ 福祉総合相談の実施

複雑、複合的な問題を抱える個人や世帯に対する包括的な相談支援を行った。

来所 46件、電話 83件、その他（LINEなど） 8件 合計相談件数 137件 （P.23参照）

6 介護サービス事業の推進

(1) 訪問介護事業所の運営

訪問介護事業、介護予防・日常生活支援総合事業、居宅介護事業、移動支援事業を実施した。

事業名	業務内容	利用人数	訪問回数	サービス提供時間数
訪問介護事業	身体介護、生活援助等業務	237 (月平均 20)	2,628 (月平均 219)	3,002 (月平均 250)
介護予防・日常生活支援総合事業	介護予防型訪問サービス業務	25 (月平均 2)	289 (月平均 24)	285 (月平均 24)
	生活支援型訪問サービス業務	491 (月平均 41)	2,769 (月平均 231)	2,626 (月平均 219)
居宅介護事業 (障害福祉サービス)	身体介護、家事援助等業務	165 (月平均 14)	1,193 (月平均 99)	1,553 (月平均 129)
	重度訪問介護業務	24 (月平均 2)	233 (月平均 19)	487 (月平均 41)
	同行援護業務	84 (月平均 7)	231 (月平均 19)	492 (月平均 41)
	行動援護業務	利用者なし		
移動支援事業	外出介助業務	5	16	13

(2) 緊急通報システム運営事業の実施（和歌山市からの受託事業）

市内在住で65歳以上のひとり暮らしの高齢者（所得税が非課税）、ひとり暮らしの身体障害者手帳1・2級の所持者又はひとり暮らし重度全身性障がい者が、家の中で助けが必要な時（急病・発作・事故等）、緊急かつ適正に救助する体制を整備し、日常生活に対する不安感を解消することにより、独居老人等の福祉の向上を図ることを目的に緊急通報システム運営事業を実施した。

利用状況

（単位：件）

	ひとり暮らし 高齢者	ひとり暮らし 障がい者(1・2級)	有料		ひとり暮らし重度 (全身性)障がい者	計
			高齢者	障害者		
設置に伴う調査件数	210	2	19	0	0	231
前年度からの継続件数	609	16	65	0	0	690
新規設置件数	210	2	19	0	0	231
センサー追加設置件数	150	3	0	0	0	153
撤去件数	106	0	14	0	0	120
次年度へ繰越件数	713	18	70	0	0	801

実 報 件 数	315	6	23	0	0	344
誤 報 件 数	215	5	11	0	0	231

※センサー追加設置は、令和6年度のみです。

7 あいあいセンター・ふれ愛センターの管理及び運営

(1) あいあいセンター福祉交流館の管理運営（和歌山市からの受託事業）

① 福祉交流館の管理

福祉交流館貸館利用状況（※使用料は和歌山市へ納入）（単位：回）

区 分	福祉団体（無料）	一般団体（有料）	計
会 議 室	3,344	158	3,502
和 室	724	11	735
工 作 室	276	1	277
料 理 室	28	0	28
附属設備	59	6	65
合 計	4,431	176	4,607

（単位：円）

使 用 料 収 入	0	712,590	712,590
附属設備使用料	0	18,840	18,840
合 計	0	731,430	731,430

② 市民大学運営事業の実施（和歌山市からの受託事業）

余暇を活用して学習するとともに、健康な生活と友情を構築し、かつ社会参加を目指すことを目的として市民大学運営事業を実施した。

ア 各教室の状況 2年制 9教室、1年制 19教室、特設 1教室、受講者 468人 （P. 24参照）

イ 新入生 417人

ウ 卒業式 令和7年3月15日 和歌山城ホール 大ホール 卒業生 314人

エ 発表会・作品展

発表会 令和7年3月15日 和歌山城ホール 大ホール

民踊、コーラス、マジック、大正琴、初級詩吟、初級手話、応用手話、太極拳
 作品展 令和7年3月13日～15日 和歌山城ホール 展示室
 初級俳句、初級書道（漢字・かな）、水墨画、日本画、フラワー、初級ペン習字、初級写真、川柳

（２）ふれ愛センターの管理運営（和歌山市からの受託事業）

① ふれ愛センターの管理

ふれ愛センター貸館利用状況（※使用料は和歌山市へ納入）

（単位：回）

区 分	福祉団体（無料）	高齢者団体（無料）	一般団体（有料）	合 計
会 議 室	1,594	793	23	2,410
研 修 室	381	36	10	427
教養文化室	141	395	0	536
合 計	2,116	1,224	33	3,373

（単位：円）

使用料収入	0	0	111,875	111,875
-------	---	---	---------	---------

② ふれ愛事業の実施

心身障がい者が事業に参加することにより、心身の鍛錬をすると共に、心身障がい者に対する地域住民の理解と認識を深め、心身障がい者の福祉の向上を図ることを目的として実施した。

ア センター事業

（ア）ふれ愛交流会 令和7年2月2日（日） バリアフリー映画「長いお別れ」
 参加者 19人（障がい者及び介助者）

（イ）ふれ愛作品展 令和7年2月28日（金）～3月2日（日）
 出品数 166点
 （内訳）機能回復訓練5点・書道48点・編物29点・華道2点・陶芸35点・点字7点
 着物着付け8点・絵画15点・聴覚パソコン2点・パソコン教室（ワード）9点
 パソコン教室（エクセル）6点
 出品者数 72人
 来場者数 127人

(ウ) 障がい児親子工作教室

令和6年8月17日(土)

「四足歩行メカ」

参加者 5組11人

(エ) 障がい者絵手紙教室

令和6年9月7日(土)

参加者 7人

イ 障害者いきいき事業の実施

障がいのある方を対象に、外出の機会や人との交流を深め、生きがいを支援することを目的として、ふれ愛センターで実施した。
(P.25参照)

③ 意思疎通支援奉仕員養成講座事業の実施

点訳、朗読講座の開催

講座実施状況

講座名	実施回数	受講者数	延べ受講者数	修了者数
点 訳	20	3	53	3
朗 読	23	12	181	7
合 計	43	15	234	10

8 団体事務局の事務の実施

和歌山市地区社会福祉協議会、和歌山市民生委員・児童委員協議会、和歌山市ボランティア連絡協議会、和歌山市老人クラブ連合会、和歌山市共同募金委員会、日本赤十字社和歌山県支部和歌山市地区、和歌山市遺族連合会、和歌山市戦災遺族会の事務局業務を実施し、各団体活動への支援を行うとともに相互に連携し地域福祉の向上や福祉課題の解決に取り組んだ。